

冊	子	目	録
	落	穂	拾
			い

『国立国会図書館所蔵 近代日本政治
関係人物文献目録 1985-1997』

国立国会図書館専門資料部編
国立国会図書館 2000年5月刊 A4
505頁 9000円 (発売 紀伊国屋書店)

1985年に『国立国会図書館所蔵 近代日本政治関係人物文献目録』国立国会図書館参考書誌部編 国立国会図書館 1985.5 532p (発売: 紀伊国屋書店) を出版し、その続編として刊行されたのが上記の目録である。被伝者数3500名、文献約14,000件を取録した。永年にわたり続編の刊行を望まれていたが、やっと実現することができた。

編集作業は1985年から1997年までの13年分のカード目録の点検作業から始まり、刊行までに約2年を要した。担当したのは参考課法政班5名である。カードの点検では、書庫内にブックトラックと折りたたみイスを持ち込み、カードと現物を確認していった。カードを記入する人によって、それぞれ書き方が異なり、過去に担当されていた諸先輩方を思い浮かべながらの作業となった。

次の作業は、採録された人物の名前、ヨミ、別名、肩書、生没年等の調査である。比較的すぐに判明するのは、国会議員、枢密院顧問官、陸海軍の将官、自治体の知事等である。反対に難しかったのは、過去の町村長、県議会議員等であった。各種の人物辞典や人物書誌等を見ても出てこない人物も多く、手間と時間がかかる作業であった。新聞の物故欄には常に目を通し、亡くなった方がいれば没年を入れることが習慣となり、法政班では、「○○さんが死んだらしい」などが普通の会話に

なった。

1万4000件のカードの点検と3500名の人物調査にほぼ1年かかり、いよいよ入力と校正作業になった。前回の目録は、すべて手作業で編集したが、今回は当館のデータベースのNORENから書誌情報をエクセルに取り込み、それに付加情報(論題名、論題著者名、ページ、注記事項等)と被伝者情報を付け加えるという方法をとった。それにより、書誌情報部分の校正作業を軽減することができた。また、作業に際して5人が能率よく行えるように、館内の「電子会議室」に連絡事項や訂正情報を掲載して使用することにした。ところがあまり使い馴れていなかったために重要な文書を誤って消去してしまい、血の気が引くような思いを味わった。幸いバックアップを取っている班員がいて事無きを得た。

校正を3回行い、それで責了となった。終わってみれば楽しい仕事であった。編集作業中に多くの政治家に関する文献を実際に書庫で手に取る機会となり、レファレンス・ライブラリアンにとっては貴重な経験となった。

この目録を編成するための基礎作業は、毎週当館が受け入れた和図書の中から、政治に関わる人物の記述がある文献を探し出し、その書名・論題名・注記事項等を付け加え、カード目録を編成することである。この地道で、当館でしか出来ない13年にわたる連綿と続いた作業を「形」にできたことが何よりも嬉しかった。そして、現在でも1998年以後の図書について、原稿となる情報を維持している。しかし、当館の蔵書目録の電子化が進み、冊子形態での刊行もこの一冊が最後かもしれない。ともかく、この目録が政治家・軍人などの人物調査のお役に立てば幸いである。

(参考課 飛田由美)